

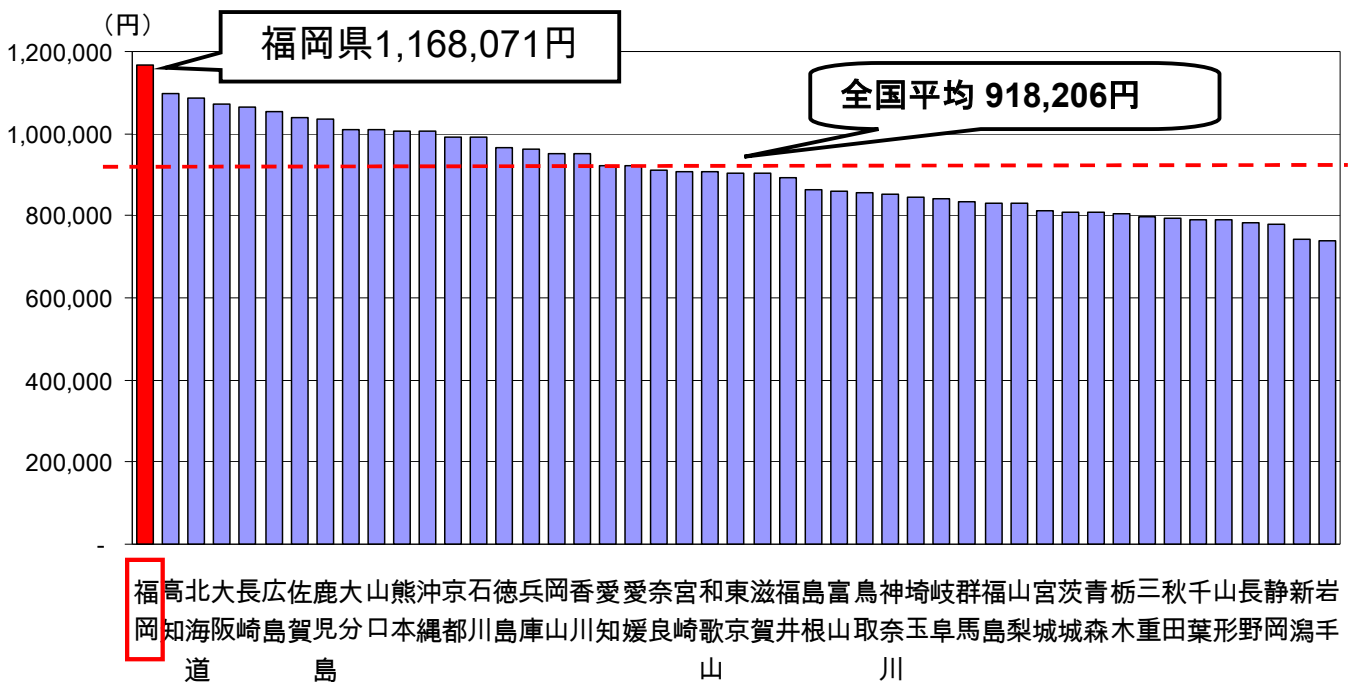
平成24年度までの事業内容について

- ジェネリック医薬品使用促進協議協議会での取組み -

1

福岡県の医療費の現状（老人1人当たりの医療費）

1人当たり後期高齢者医療費の全国比較（平成23年度）



※ 後期高齢者医療事業年報（厚生労働省）より作成

福岡県の高齢者(老人)医療費は、平成14年度から10年連続で全国1位²

ジェネリック医薬品使用促進事業について

【背景】

- ・ 福岡県は、県民1人当たりの医療費が全国平均と比べて高い。
- ・ 高齢者医療費は全国第1位である。

⇒ **医療費の適正化が課題**

ジェネリック医薬品は

- ・ 先発医薬品と同じ有効成分、同じ効き目をもつ医薬品
- ・ 価格が先発医薬品に比べて安い

⇒ **国・県の負担する医療費が抑制される**

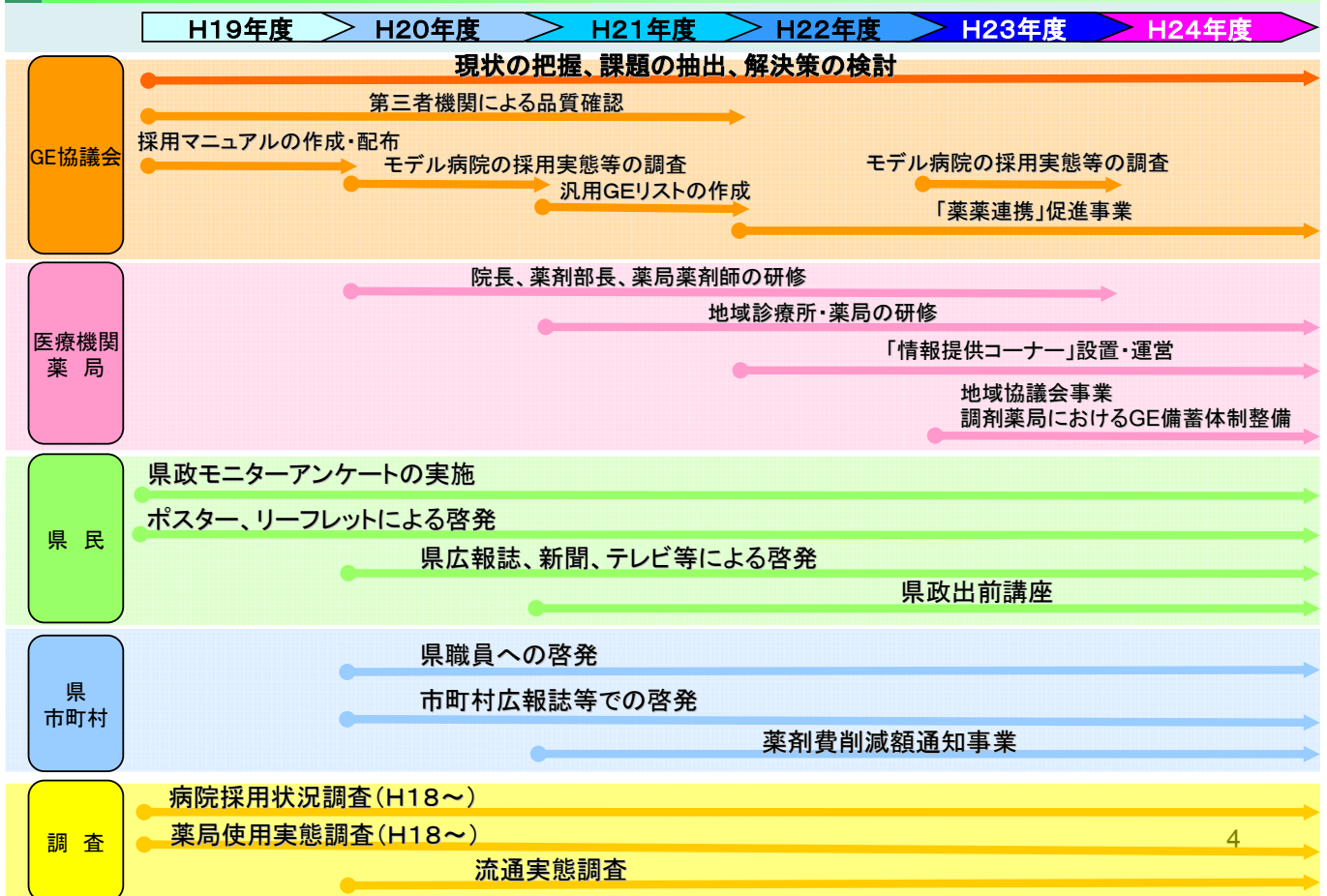
【目標】

- ・ 医療関係者や県民がジェネリック医薬品を利用しやすい環境を整備し、ジェネリック医薬品の使用促進を図る。
- ・ 平成24年度までに普及率(数量ベース)を30%以上にする。

【結果】

- ・ 平成24年度の普及率(数量ベース)は32.6%であり、目標を達成した。³

ジェネリック医薬品に係る取組みの概要



福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会について

福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会

福岡県では平成19年8月から開催

☆ 協議会の目的

福岡県内におけるジェネリック医薬品（GE）の使用を促進することにより、医療の質を確保しながら患者負担の軽減及び医療費の伸びの適正化を図るため、GEに係る課題抽出、解決策の検討等を行う。

☆ 協議会の目標

平成24年度までにジェネリック医薬品の普及率（数量ベース）を**30%以上**にする。

☆ 委員構成

- 有識者 : 大学教授（薬学）
医療関係者 : 県医師会、県薬剤師会、モデル病院（13施設）
医薬品業界関係者 : 県医薬品卸業協会、県ジェネリック医薬品販社協会
日本ジェネリック製薬協会
県民代表 : 県地域婦人会連絡協議会、県老人クラブ連合会

5

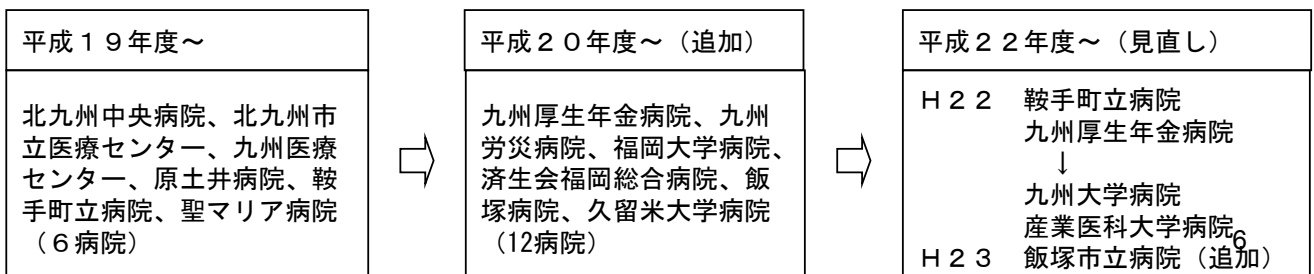
ジェネリック医薬品使用促進協議会モデル病院について

モデル病院 ← 地域の基幹病院から選定

- ・協議会に現場の状況等の情報を提供
- ・協議会での協議内容等を現場（周辺医療機関を含む）にフィードバック

| <北九州ブロック> | <福岡ブロック> | <筑後ブロック> | <筑豊ブロック> |
|--|--|-------------------|----------------|
| 北九州中央病院 北九州市立医療センター 九州労災病院 産業医科大学病院 | 九州医療センター 原土井病院 福岡大学病院 済生会福岡総合病院 九州大学病院 | 聖マリア病院 久留米大学病院 | 飯塚病院 飯塚市立病院 |

【モデル病院の推移】



福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会について

☆ 平成19年度から年4回実施（平成22年度のみ3回）

☆ ジェネリック医薬品の普及状況等について、現状の把握、課題の抽出、解決策の検討を実施

☆ これまでに実施してきた施策

- ・ 第三者機関による品質確認（平成19～21年度）
- ・ ジェネリック医薬品採用マニュアルの作成・配布（平成19年度）
- ・ モデル病院の採用実態等の調査（平成20年度、23年度）
- ・ 汎用ジェネリック医薬品リストの作成（平成21年度）
- ・ 各種調査の実施結果報告（随時）
 - 病院、薬局等へのアンケート調査の実施
 - ジェネリック医薬品流通実態調査の実施

7

第三者機関による品質確認について

実施目的

医療関係者の中に、ジェネリック医薬品の品質について漠然とした不信感が存在していることから、第三者機関による溶出試験を実施し、品質に問題がないことを確認することで、この不信感を払拭し、ジェネリック医薬品を安心して使用することができるようにすること

実施内容

平成19～21年度にかけて以下の品目について溶出試験を実施

[平成19年度]

モデル病院から溶出試験実施の希望があった特定の品目
(16品目/14成分)

[平成20年度]

大型ジェネリック医薬品（アムロジピンベシル酸塩）

[平成21年度]

大型ジェネリック医薬品（レボフロキサシン）

8

溶出試験による品質確認結果について(1)

試験品目

モデル病院から溶出試験実施の希望があった特定の品目(16品目/14成分)

オレンジブック収載品

- ・ロキソプロフェンNa
(60mg錠×2品目)
- ・ニコランジル(5mg錠)
- ・塩酸アンブロキシール(15mg錠)
- ・塩酸チクロピジン(100mg錠)
- ・塩酸エピナスチン(20mg錠)
- ・塩酸プロピペリン(10mg錠)
- ・クラリスロマイシン(200mg錠)

オレンジブック未収載品

- ・イトラコナゾール(100mg錠)
- ・ボグリボース
(0.3mg普通錠/0.2mgOD錠)
- ・塩酸バンコマイシン(0.5g散剤)
- ・ファモチジン(20mgD錠)
- ・オメプラゾール(10mg腸溶錠)
- ・リマプロストアルファデクス(5 μ g錠)
- ・ニフェジピン(20mgCR錠)

結果

全ての品目で基準を満たしていることを確認

9

溶出試験による品質確認結果について(2)

試験品目

平成20年7月に薬価収載されたアムロジピン・ノルバスクのジェネリック医薬品

アムロジピン錠2.5mg(全34品目)

会社名(屋号) :

あすか, アメル, RLL, EMEC, イセイ, EP,
イワキ, NS, NP, F, MED, オーハラ, 科研,
ガレン, KN, ケミファ, コーワ, サワイ, サンド,
JG, CH, タイヨー, タカタ, タナベ, ツルハラ,
TCK, TYK, トーワ, 日医工, PH, フソー,
マイラン, 明治, YD

結果

全ての品目で基準を満たしていることを確認

10

溶出試験による品質確認結果について(3)

試験品目

平成21年5月に薬価収載されたクラビットのジェネリック医薬品

レボフロキサシン錠100mg（全23品目）

会社名（屋号）：

アメル, イセイ, イワキ, NP, F, MEEK,
オーハラ, 科研, KRM, サワイ, JG, CH,
ZE, タイヨー, タカタ, DK, TCK, TYK,
トーフ, 日医工, BT, マイラン, YD

規定時間90分/溶出率80%以上のとき適合

結果

全ての品目で基準を満たしていることを確認

11

福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアルについて

1. 概要

- ・ 県内の病院、診療所、保険薬局において、ジェネリック医薬品(GE)を採用する際に参考になるよう品質、情報収集、供給体制等について評価する事項等を取りまとめたもの
- ・ 平成20年3月作成 配布先 医療機関:4,000部、保険薬局:2,500部
- ・ 対象医薬品：内服固形剤（注射薬や外用薬等の採用の参考にも使用可）

2. 位置づけ

福岡県ジェネリック医薬品使用促進事業において、医療機関及び保険薬局(各医療機関等)がGEを採用する際に用いる統一的選択基準であり、その位置づけは次のとおり。

- ① GEを採用する各医療機関等においては、GEの選択の目安として可能な限りこれを尊重する。
- ② GEの品目選定は各医療機関等の責任において行うこととし、福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会及び本採用マニュアルはその責を負わない。
- ③ 数あるGEの中から各医療機関等が採用するGEを本マニュアルにより決定した場合、採用理由に係る患者の求めに本採用マニュアルをもって応じることは差し支えない。

12

福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアルについて

【福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアル】ジェネリック医薬品評価表

ジェネリック評価 第一レベル（必須項目）

ジェネリック評価 第二レベル（任意項目）

(1/3)

(1/3)

| 大項目 | 評価項目 | | 評価方法 | | | 留意事項 |
|-----------|---|--|--------------------------|--------------------------|--|---|
| | 中項目 | 小項目 | 優れている | 普通 | 劣っている | |
| 品質 | 安定性 | 安定性試験(下記①又は②)の結果は良好か ①加速試験:40℃±2℃/75%RH±5%RH、6ヶ月間 ②長期保存試験:[25℃±2℃/60%RH±5%RH]又は[30℃±2℃/65%RH±5%RH]、12ヶ月間 | 経時変化がほとんどない | 経時変化が認められるが十分承認規格の範囲内である | 承認規格の限度値に近い経時変化が認められ、保存条件によっては規格を逸脱するおそれがある | ・冷所保存の製剤等には別の条件がある ・先発医薬品と同等の条件又はその製剤に見合う条件で判断する |
| | | 先発医薬品より安定である | 先発医薬品と同程度に安定である | 先発医薬品よりも安定性が劣る | ・錠剤を粉砕する場合がありますが、安定性を確認する必要があります ・通常、一包装からはずした場合は安定性を確認する必要があります ・これらの品質は、メーカーに保証義務はないため、未処方品と試験処方品との生物学的同等性は医師・薬剤師の責任で判断することとなる ・先発医薬品で実施されている場合で、対応するGEで当該試験が実施されていない場合は、「劣っている」と評価する | |
| | 規格及び試験方法(原体、製剤) | 含量、性状、確認試験、示性値、純度試験、乾燥減量、強熱残渣分、灰分又は酸不溶性残渣、製剤試験(重量偏差試験や溶出試験など)、特殊試験、定量法等の規格及び試験方法の結果について | すべて十分規格の範囲内にある | すべて十分規格の範囲内にある | 規格の限度値に近い結果が見られる | |
| 生物学的同等性試験 | 経口製剤の生物学的同等性試験に際して溶出試験が実施されており、その結果は良好か | 溶出挙動は標準製剤とほとんど変わらない | 標準製剤との溶出挙動の差は十分基準の範囲内にある | 溶出挙動に大きなずれがある | 経口製剤では溶出挙動が生物学的同等性に関する重要な情報を与えるものであり、これをもって同等性の間接的証明とする | |

| 大項目 | 評価項目 | | 評価方法 | | | 留意事項 | | |
|-----------|------|---|------------------------------|---|-----------------------------|---|---|-----------------------------|
| | 中項目 | 小項目 | 優れている | 普通 | 劣っている | | | |
| 品質 | 安定性 | 有効期限 | 先発医薬品よりも長い | 先発医薬品と同じ | 先発医薬品よりも短い | | | |
| | | 評法 | 先発医薬品より優れている(より緩和な条件) | 先発医薬品と同じ | 先発医薬品より劣る(より厳しい条件) | | | |
| 品質 | GMP | GMPに依わる査察評価資料等の開示の可否 | 可 | | 否 | GMPへの対応状況を確認する | | |
| | | | 製剤改良 | 製剤改良による付加価値が加わっているか(使用感の同等性または向上性、新規格等) | 製剤改良により、製薬コンプライアンス等の向上が見込める | 製剤改良されているが、その効果は先発医薬品と同等である | 製剤改良されているが、その効果は先発医薬品より劣る | |
| 情報収集・提供体制 | 情報部門 | PMS部門の体制(GVP等の遵守) | 十分な人員(専任者等)により安全管理業務が実施されている | 専任者等により安全管理業務が実施されている | 安全管理業務を行う専任者が設置されていない | ・安全管理部門の体制を把握して判断する ・市販後の情報集・評価を適切に行うことが望ましい | | |
| | | | MR | 県内活動拠点の有無と担当MR | 県内に営業拠点がMRを配置している | 県内に営業拠点はMRがいない | 九州地区担当のMRがない | 適切な配置を促し、配置状況を定期的に把握する必要がある |
| | | | 訪問回数 | 定期的訪問している | 適宜、訪問している | ほとんど訪問がない | 病院の訪問規定に合わせて定期的な訪問活動が望まれる | |
| 情報収集・提供体制 | IT | ホームページの内容の確認 ・企業概要 ・添付文書 ・インタビューフォーム ・緊急安全性情報 ・再審査・再評価結果 ・使用上の注意改訂のおしらせ | 左記の情報以外にも有用な学術情報が掲載されている | 左記の情報は掲載されている | 十分な内容ではない | 病院として望む情報があるか確認する | | |
| | | | 電子メール等による情報提供 | HP掲載以外の情報も提供可能 | HP掲載情報であれば提供可能 | 提供不可 | メールリンク等により迅速に情報提供できる(安全性情報、添付文書の改定情報等)体制があること望ましい | |

13

福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアルについて

- 評価項目 (①品質、②情報収集・提供体制、③供給・リスクマネジメント)

第一レベル(必須項目):採用する際に必ず評価すべき項目

第二レベル(任意項目):参考的に第一レベルを補完する項目

第一レベル(必須項目) (第二レベルも同様)

大項目

中項目

小項目

①品質

安定性

安定性試験の結果は良好か

添加物

光安定性、粉砕後安定性、無包装・カプセル開封後安定性、他剤との配合変化等の試験が実施されている場合、その結果は良好か

生物学的同等性試験

②情報収集・提供体制

情報部門

学術部門の有無

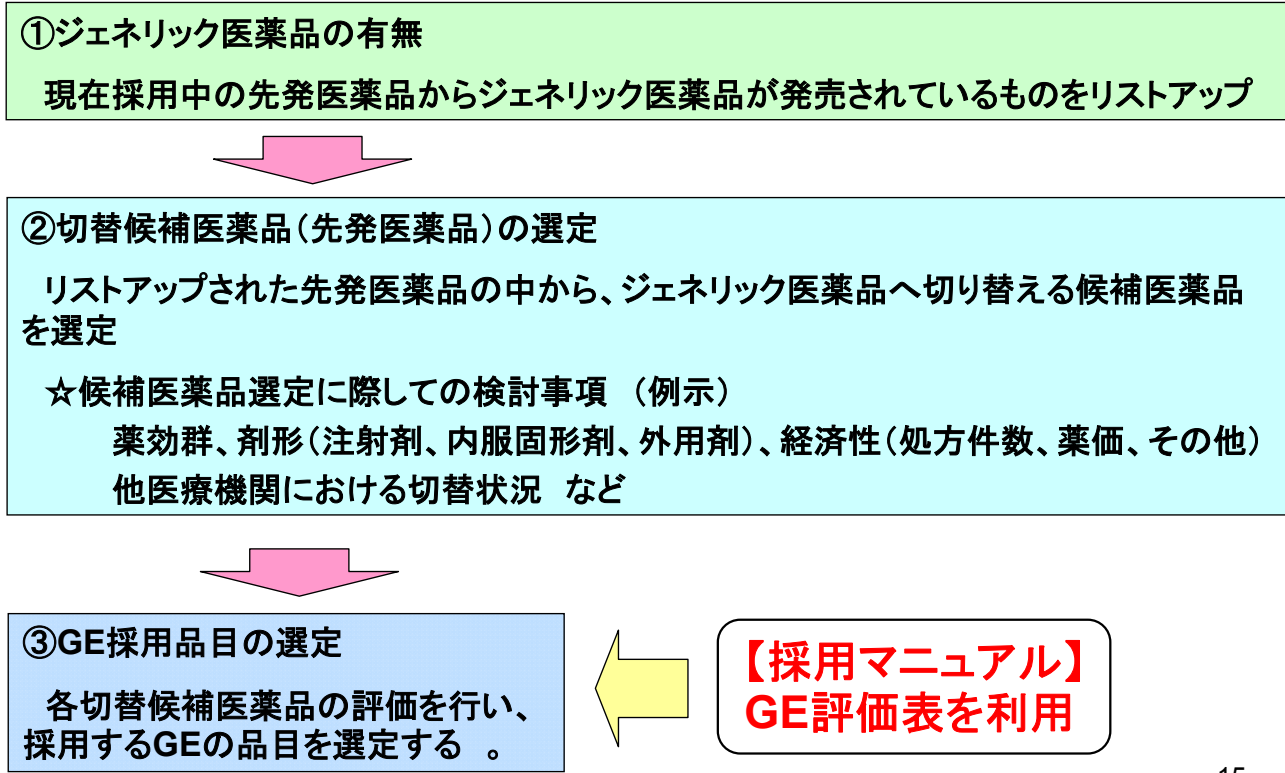
MR

MR教育

14

ジェネリック医薬品の採用手順とマニュアルの利用例

【各医療機関におけるジェネリック医薬品(GE)採用手順例】

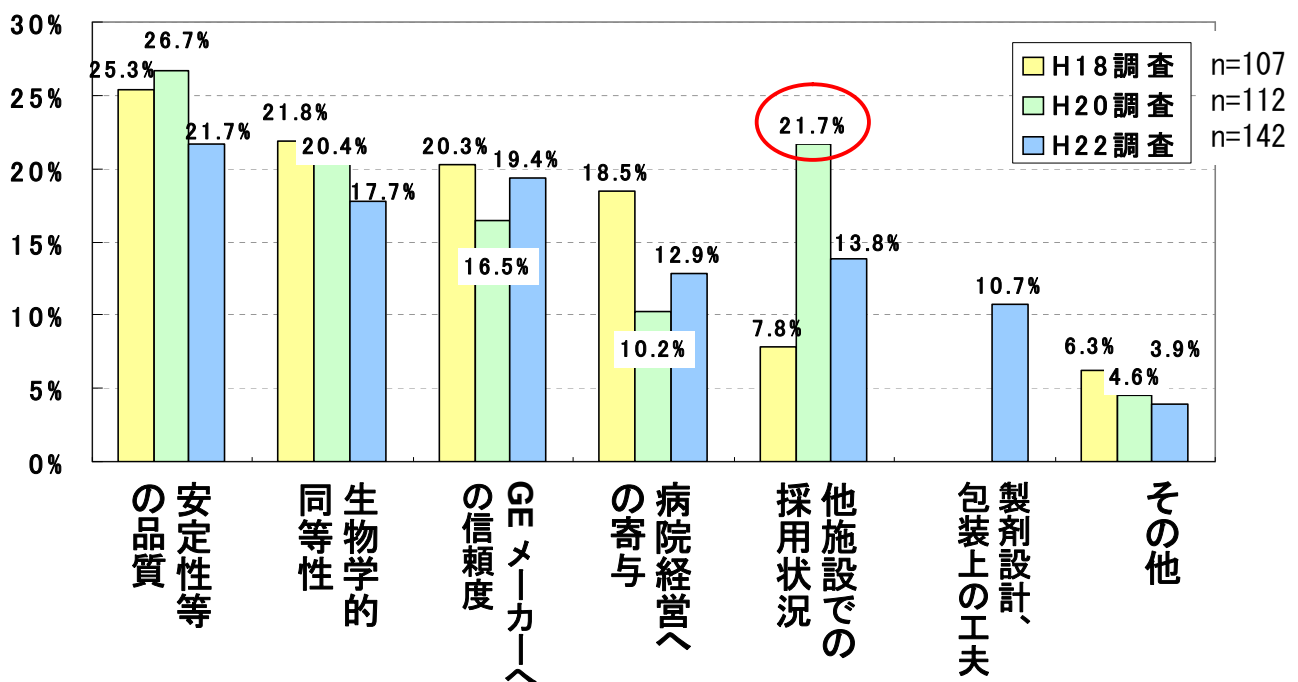


15

モデル病院採用ジェネリック医薬品リストの作成

【リスト作成の背景】

ジェネリック医薬品の採用時に重視する基準



※福岡県病院協会会員病院へのアンケート調査結果 16
※複数回答

モデル病院採用ジェネリック医薬品リストの作成

モデル病院採用ジェネリック医薬品リスト

- ・ 病院へのアンケート調査の結果、病院でジェネリック医薬品を採用する際に重視する基準として、「他施設での採用状況」との回答が増加していたことから、協議会のモデル病院において採用しているジェネリック医薬品をリスト化することとし、**平成21年3月**に作成した。
- ・ 配布部数 医療機関:4,000部、保険薬局:2,500部

H21. 4

| 成分名 | 規格 | 品名 | 製造販売業者 | 採用施設数 |
|---------------------|-----------|----------------------|------------|-------|
| 【内用薬】 | | | | |
| 【催眠鎮静剤、抗不安薬】 | | | | |
| トリアゾラム | 0.125mg1錠 | トリアゾラム錠0.125mg「EMEC」 | サノール | 3 |
| | 0.125mg1錠 | バルレオン錠0.125mg | 大洋薬品工業 | 1 |
| プロチゾラム | 0.25mg1錠 | グッドミン錠0.25mg | 田辺三菱製薬 | 1 |
| ロラゼパム | 0.5mg1錠 | アズロゲン錠0.5 | 高田製薬 | 1 |
| ロフラゼパ酸エチル | 1mg1錠 | メダタックス錠1 | メイ新薬 | 1 |
| 【抗てんかん薬】 | | | | |
| カルバマゼピン | 50%1g | レキシシ50%細粒 | 藤永製薬 | 1 |
| | 200mg1錠 | レキシシ錠200mg | 藤永製薬 | 1 |
| | 100mg1錠 | レキシシ錠100mg | 藤永製薬 | 1 |
| バルプロ酸Na | 40%1g | ハイセレニン細粒40% | 日本オルガノン | 4 |
| | 200mg1錠 | バレリン錠200mg | 大日本住友製薬 | 1 |
| | 5%1mL | セレブシロップ5% | テイコクメディックス | 2 |
| 【解熱鎮痛消炎剤】 | | | | |

汎用ジェネリック医薬品リストについて(1)

汎用ジェネリック医薬品リスト

- ・ 平成22年3月に作成
- ・ 汎用されているジェネリック医薬品の中で、積極的な採用によるメリットが大きいと思われる品目を取りまとめたもの

【掲載品目の要件】

- ① 多数のモデル病院(12病院中6病院以上)が採用していること。
- ② 製材設計の工夫による苦味等の軽減、口腔内崩壊錠の設定、安定性の延長等の評価がなされていること。

- ・ 配布部数
 - ・ 医療機関:4,220部
 - ・ 保険薬局:2,000部

汎用ジェネリック医薬品リストについて(2)

汎用ジェネリック医薬品リスト

製剤設計の工夫によるGEの特徴の評価について

1. 基本情報

(1)~(9): 品目の基本情報を記載。

(10): 相違点については、先発医薬品とGEと比較した際に「禁忌」、「効能・効果」「使用上の注意」などで相違がある場合、その内容を記載する。

2. 製剤改良に基づく特徴の詳細

(製剤改良の内容を記載する)

3. 使用実績及び評価

(採用時期、現在の使用量、患者、薬剤部、医師、病棟スタッフの評価を記載する)

4. 特記事項

(品質関係、情報提供、供給体制、院内での採用の経緯等の事項があれば記載する)

19

汎用ジェネリック医薬品リストについて(3)

汎用ジェネリック医薬品リストの構成①

モデル病院6病院以上で採用されている医薬品、又は、製剤設計等の工夫による、苦味等の軽減、口腔内崩壊錠の設定、安定性の延長などの特徴が評価された医薬品のリストを掲載

製剤設計の工夫による特徴が評価されたジェネリック医薬品

| 剤型 | GE製品名 GE規格 | 良好な服用感 | 少量の水で服用可 | 先発品にない規格がある | 用時懸濁性が高い | 調剤が容易 | 安定性が高い | 調剤過誤防止に有効 | ※その他 | 掲載頁 |
|------------------|--------------------|--------|----------|-------------|----------|-------|--------|-----------|------|-----|
| 【解熱鎮痛消炎剤】 | | | | | | | | | | |
| | カロナール錠 200mg錠 | ○ | | ○ | | | | | | 9 |
| | セレブシロップ5% 5%1ml | | | | | ○ | | | ○ | 10 |

セレブシロップ 5 %
5 % 1 ml

20

汎用ジェネリック医薬品リストについて(4)

汎用ジェネリック医薬品リストの構成②

掲載したジェネリック医薬品について、**1. 基本情報、2. 製剤改良に基づく特徴の詳細、3. 使用実績及び評価、4. 特記事項** を掲載

(例)

1. 基本情報 セレブシロップ 5%

| | | | |
|------------|------------|-------------|--------|
| (1)一般名 | バルプロ酸ナトリウム | | |
| (2)GE製品名 | セレブシロップ | (3)GE規格 | 5%1ml |
| (4)先発品名 | デパケンシロップ | (5)先発品規格 | 5%1ml |
| (6)GE薬価 | 7.20 円 | (7)先発品薬価 | 9.30 円 |
| (8)GE製造販売元 | 日医エフアーマ | (9)先発品製造販売元 | 協和発酵 |
| (10)相違点 | | | |

21

汎用ジェネリック医薬品リストについて(5)

(例)続き セレブシロップ 5%

2. 製剤改良に基づく特徴の詳細

- 1本 200mg/4ml のプラスチックアンプルになっていて、計量する必要なく衛生的である。

3. 使用実績及び評価

- 平成16年9月1日採用。
- 現在、60,480ml/年、使用。

4. 特記事項

- 学術部門があり、問い合わせに十分対応可能である。
- 定期的に訪問し、薬品に対する情報を提供している。

22

各種アンケート調査の実施結果について

1. 県民向けアンケート

⇒ 対象：県民モニター

期間：平成19、22、24年度

2. 医療機関への調査

⇒ 対象：福岡県病院協会会員

期間：平成18、20、22、24年度

3. 薬局への調査

⇒ 対象：福岡県薬剤師会会員

期間：平成20、22、24年度

23

県政モニターアンケートの結果(1)

平成24年度県政モニターアンケート

○調査方法

対象：福岡県 県政モニター(299名)

調査方法：郵送又は電子メール

調査期間：平成24年11月1日～11月12日

○結果

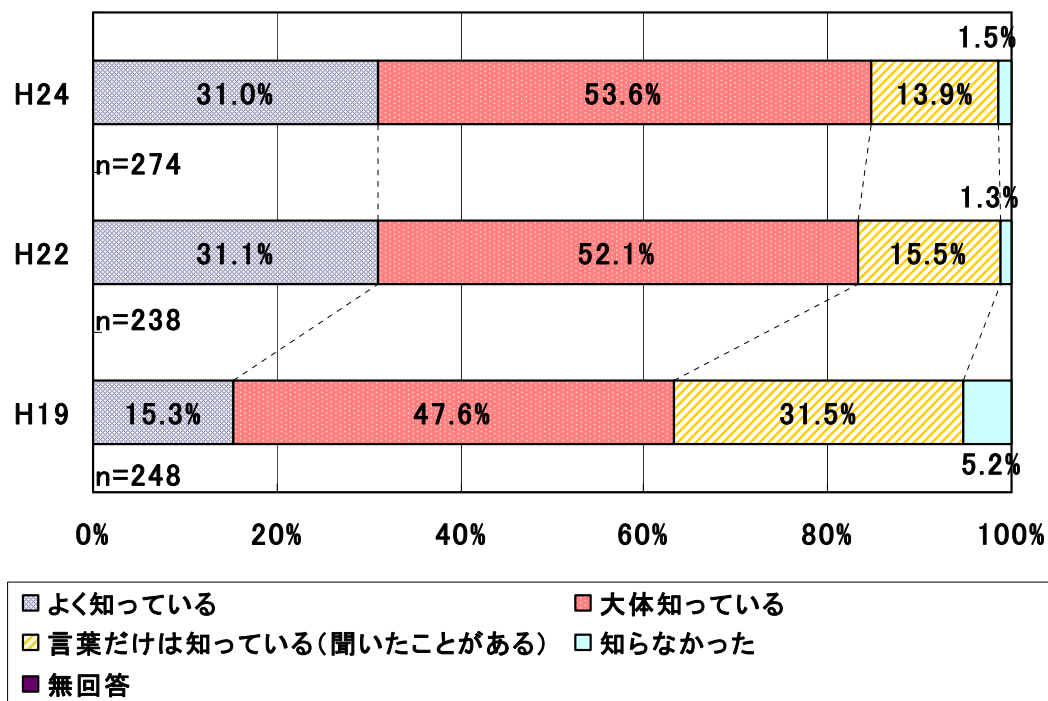
274名が回答(回答率 91.6%)

※ 平成19、22年実施の調査と同じ設問については結果を参考までに並記した。

24

県政モニターアンケートの結果(2)

質問 ジェネリック医薬品を知っていますか。

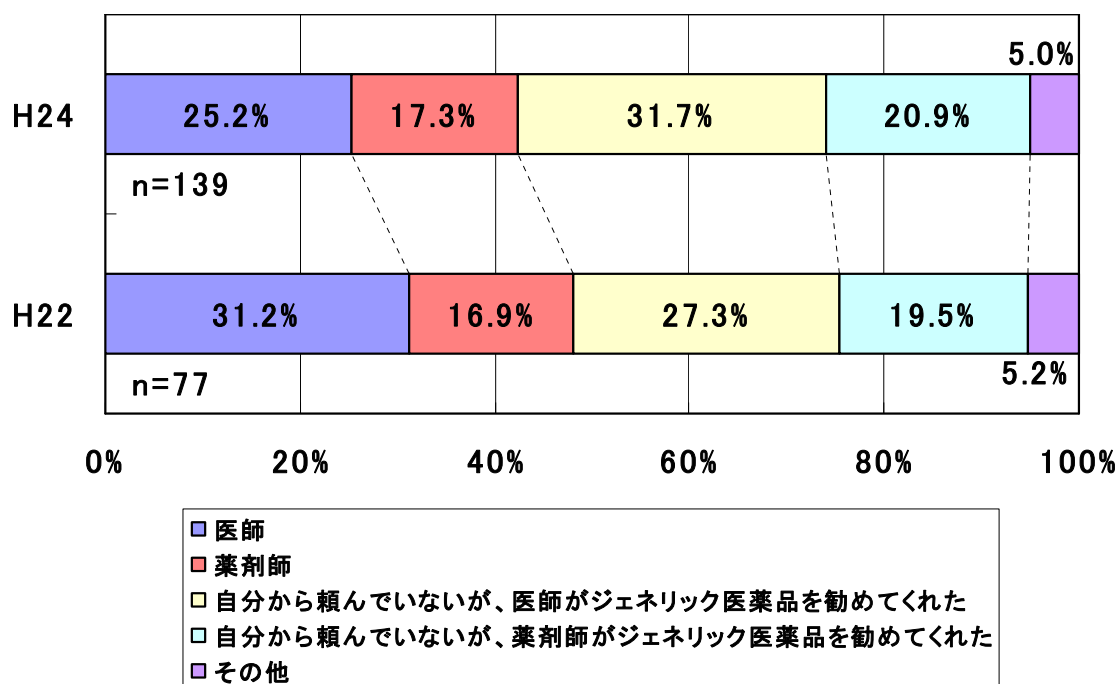


県民のジェネリック医薬品の認知度は向上している。

25

県政モニターアンケートの結果(3)

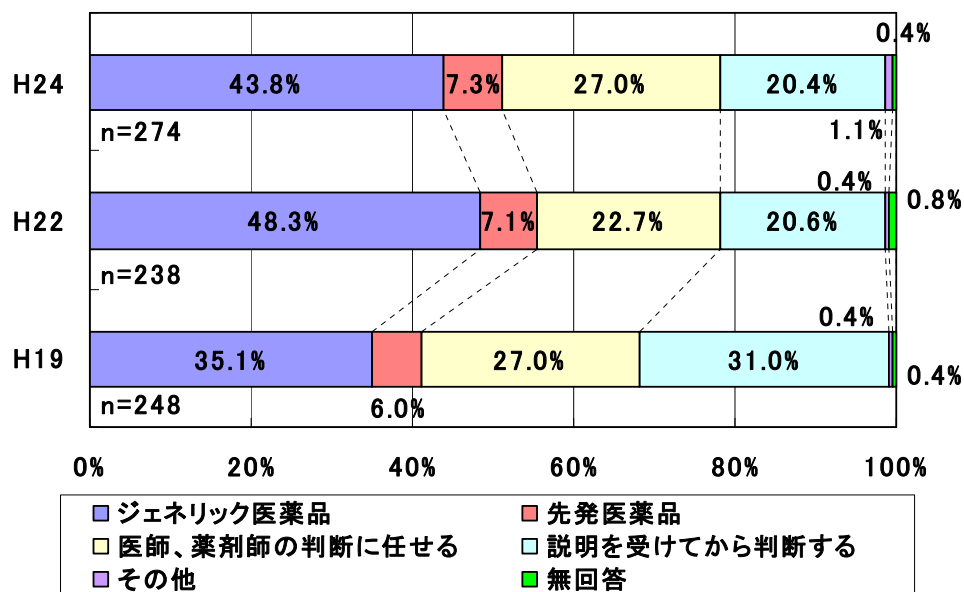
質問 ジェネリック医薬品の処方箋を誰に頼みましたか。



依頼される前に医師、薬剤師がジェネリック医薬品を勧める件数が増えている。

県政モニターアンケートの結果(4)

質問 先発医薬品とジェネリック医薬品をどちらでも処方してもらえる場合、どちらを希望しますか。



⇒ 43.8% が「ジェネリック医薬品」、7.3% が「先発医薬品」を希望すると回答した。残りは「医師、薬剤師の判断に任せる」、「説明を受けてから判断する」であった。²⁷

県内病院の採用状況調査の実施

○調査方法

対象病院：福岡県病院協会会員

調査方法：アンケート郵送

回収方法：郵送（返信用封筒同封）

調査期間：平成18年9月11日～10月10日

平成20年9月12日～10月10日

平成22年9月30日～10月29日

平成24年12月7日～平成25年1月25日

○回答率

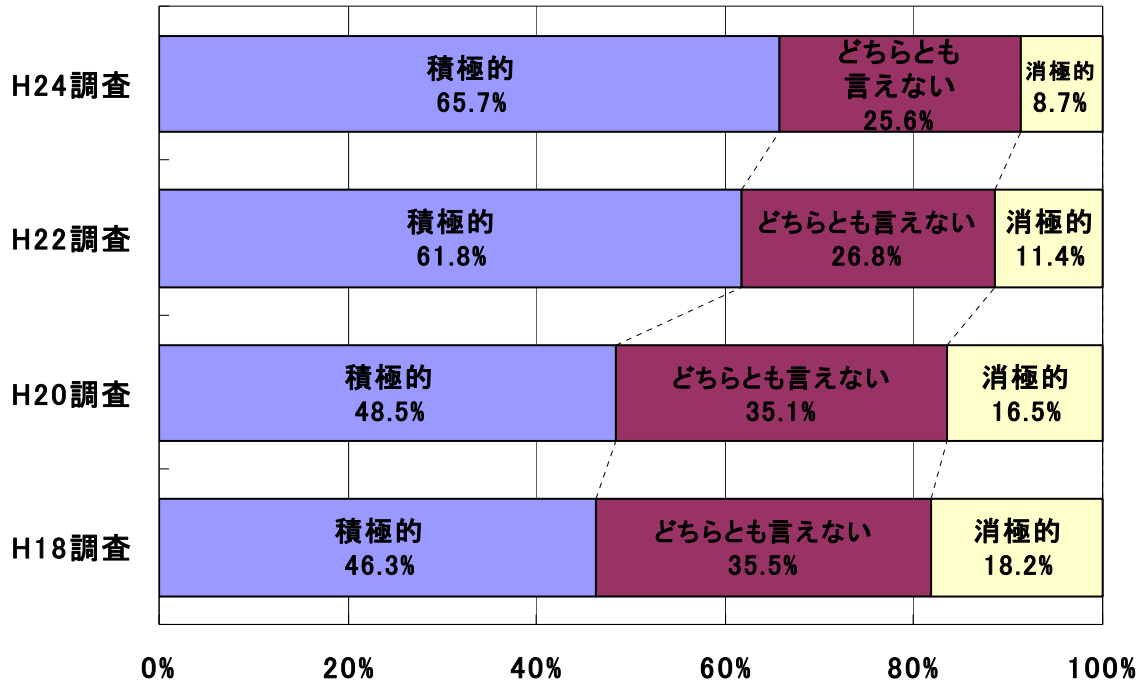
平成18年度：95.1%（232施設）

平成20年度：94.7%（231施設）

平成22年度：91.8%（228施設）

平成24年度：82.4%（208施設）

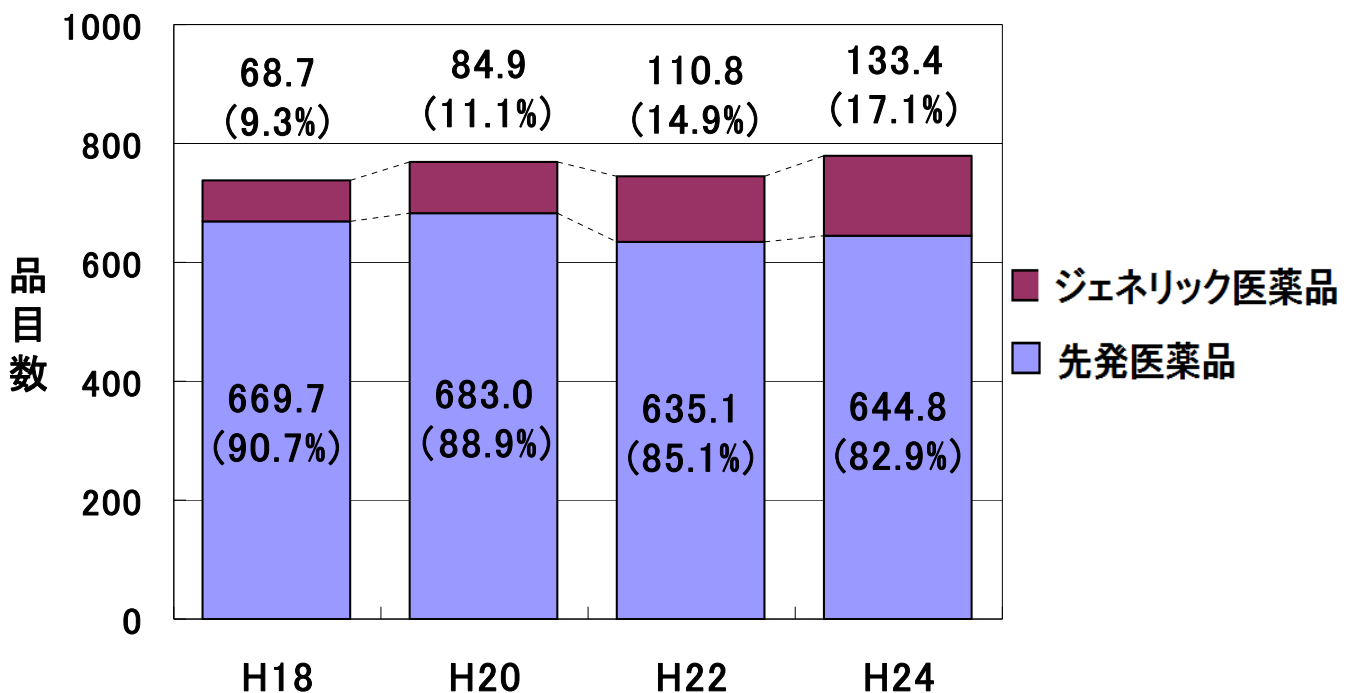
病院におけるジェネリック医薬品の採用について



ジェネリック医薬品の採用に積極的な病院が増加している。

29

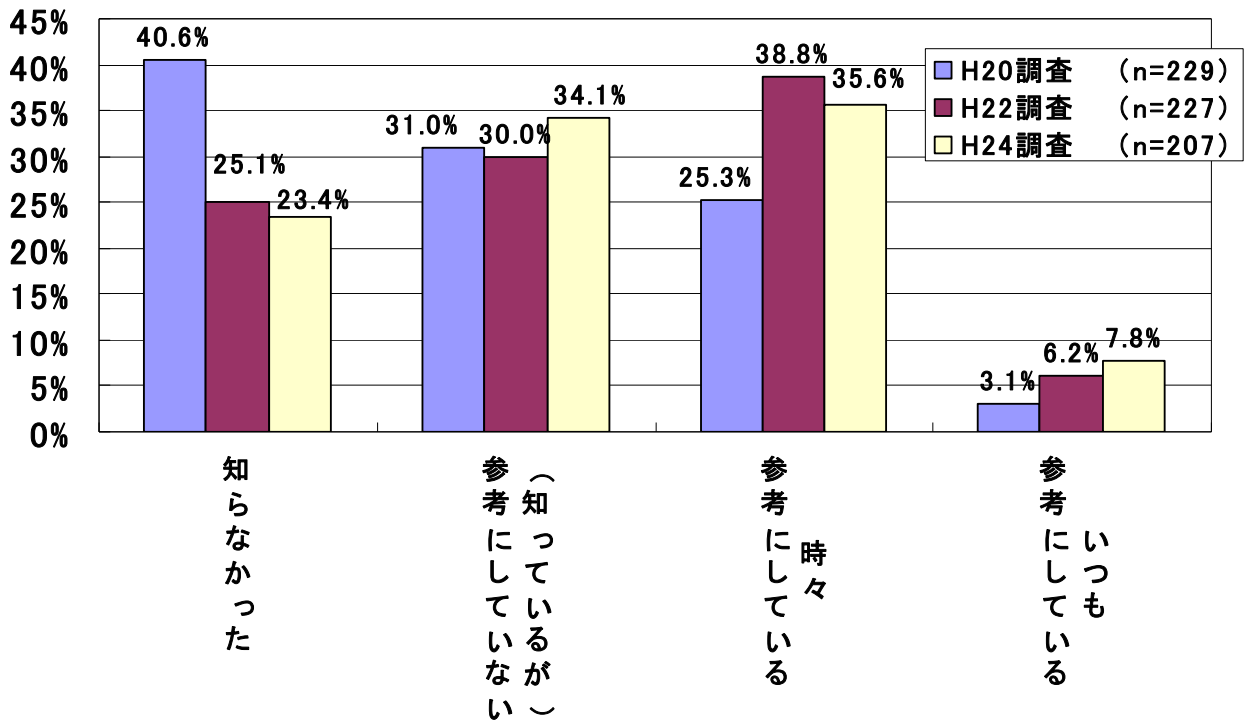
病院での採用医薬品の品目数



病院におけるジェネリック医薬品の採用品目数は増加している。

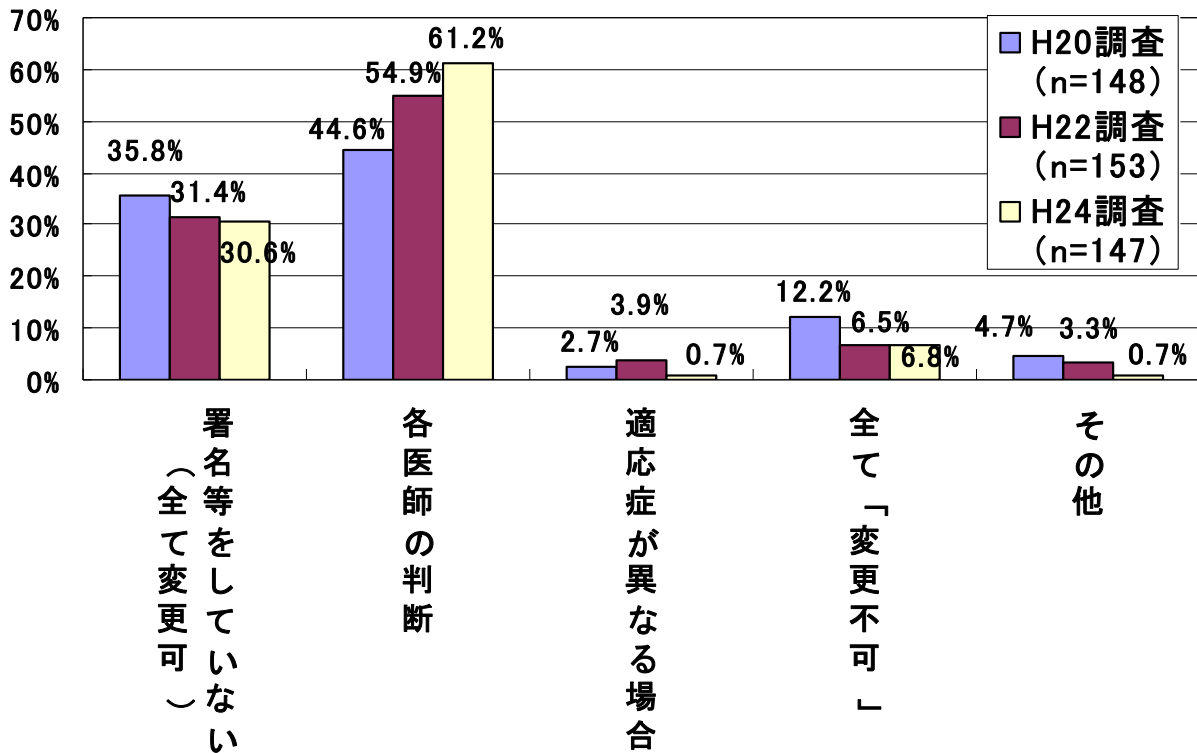
30

福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアル等について



31

ジェネリック医薬品への「変更不可」の署名について



32

県内薬局の使用実態調査の実施

○調査方法

対象病院：(社)福岡県薬剤師会会員調剤薬局

調査方法：アンケートの配布及び回収を

(社)福岡県薬剤師会に依頼

調査期間：平成20年9月1日～9月30日

平成22年11月10日～11月19日

平成24年11月12日～11月21日

○回答率

平成20年度：70.3% (1,555施設/2,213施設)

平成22年度：87.3% (2,014施設/2,306施設)

平成24年度：80.7% (1,900施設/2,353施設)

※結果については、過去の調査結果と比較できる事項は、併せて記載した。

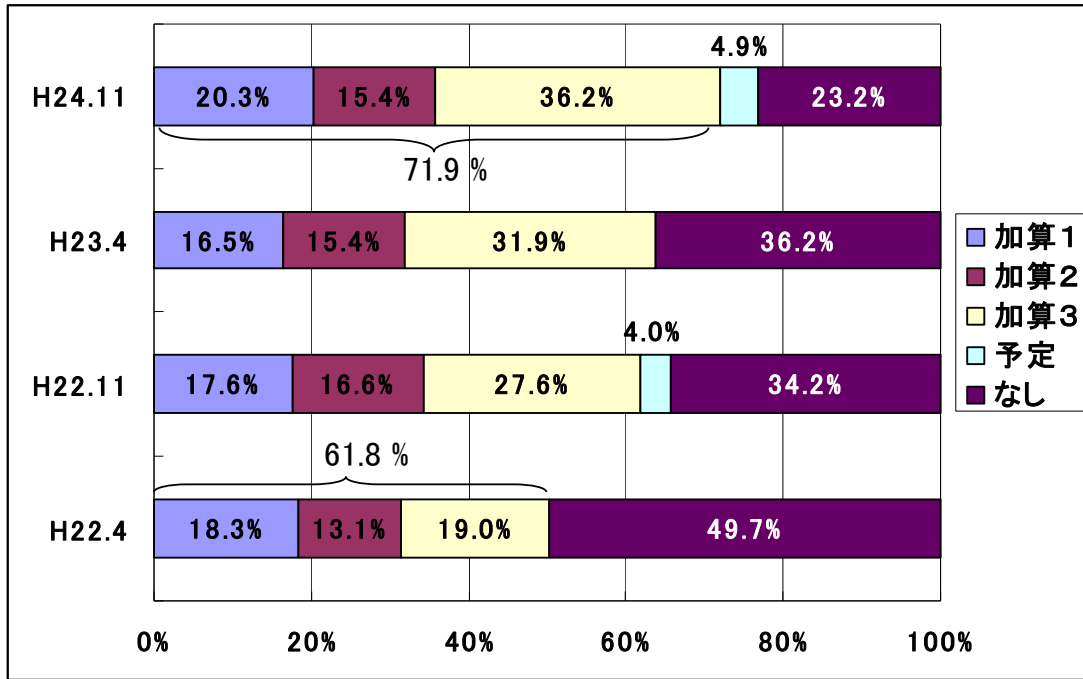
県内薬局の取扱い処方せんの状況

| 処方内容及びGE変更の有無 | | H22.11 | | | H20.9 | | | |
|---|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------|
| | | 変更不可 サイン | 割合(①～⑦) | | 変更不可 サイン | 割合(①～⑦) | | |
| | | | 割合 (①～④) | 割合 (①～③) | | 割合 (①～④) | 割合 (①～③) | |
| ① 1品目以上、GEに変更した (銘柄名で記載されたGEをほかのGEに変更したものを含む。) | 「無」 72.8% | 5.7% | 7.8% | 9.5% | 「無」 68.0% | 3.9% | 5.7% | 6.9% |
| ② 変更していないが、GE(銘柄指定)は調剤した | | 34.3% | 47.1% | 57.3% | | 31.8% | 46.8% | 56.8% |
| ③ 変更可能な品目があったが、 1品目もGEを調剤しなかった | | 19.8% | 27.2% | 33.2% | | 20.4% | 29.9% | 36.3% |
| ④ 変更可能な品目が1品目も無かった (全てGEの無い先発医薬品であった) | | 13.0% | 17.9% | | | 12.0% | 17.7% | |
| ⑤ GEが銘柄指定されていた | 「有」 27.2% | 11.7% | | | 「有」 32.0% | 13.8% | | |
| ⑥ 変更可能な品目があった(⑤の場合を除く。) | | 10.1% | | | | 11.6% | | |
| ⑦ 変更可能な品目が1品目も無かった (全てGEの無い先発医薬品であった) | | 5.5% | | | | 6.6% | | |
| 有効回答施設数(*1) | | 1,932 | | | 893 | | | |
| 処方せん枚数(*2) | | 918,208 | | | 1,063,214 | | | |

*1 ①～⑦の回答全てが有効だった施設について集計

*2 H20年調査は1ヶ月間、H22年調査は10日間の調査

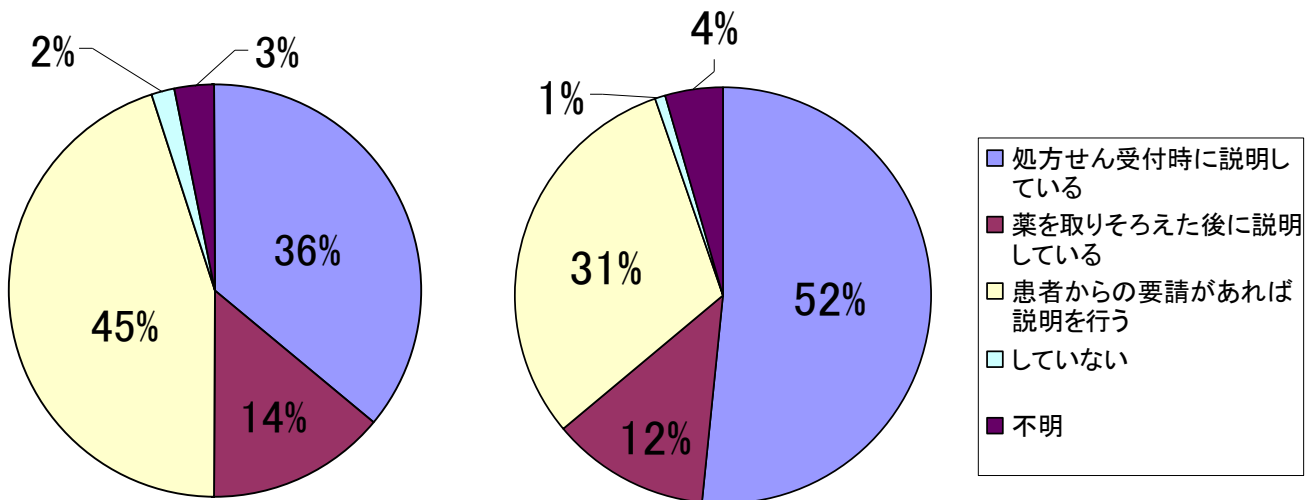
県内薬局の「後発医薬品調剤体制加算」の算定について



※回答が有効であった施設について集計 (H24調査n= 1,870、H22調査n=1,977)

- 加算Ⅰ・・・ジェネリック医薬品の使用割合が22%以上 5点
- 加算Ⅱ・・・ジェネリック医薬品の使用割合が30%以上 15点
- 加算Ⅲ・・・ジェネリック医薬品の使用割合が35%以上 19点

県内薬局における患者に対するGEの説明状況

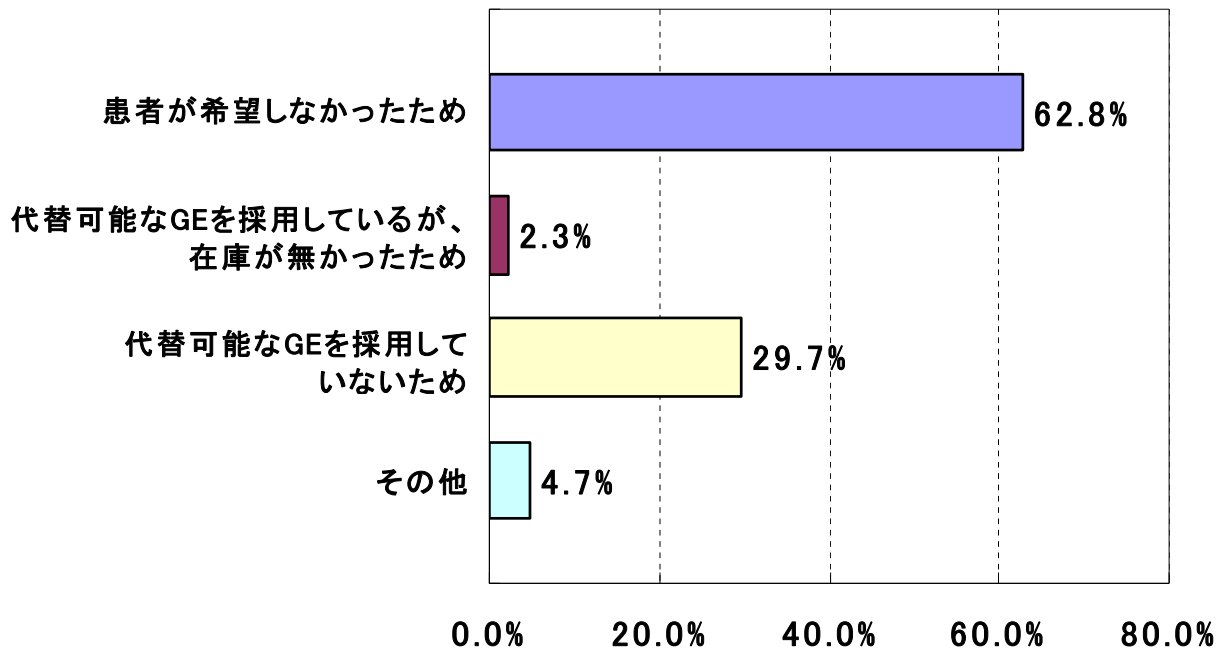


H22

H24

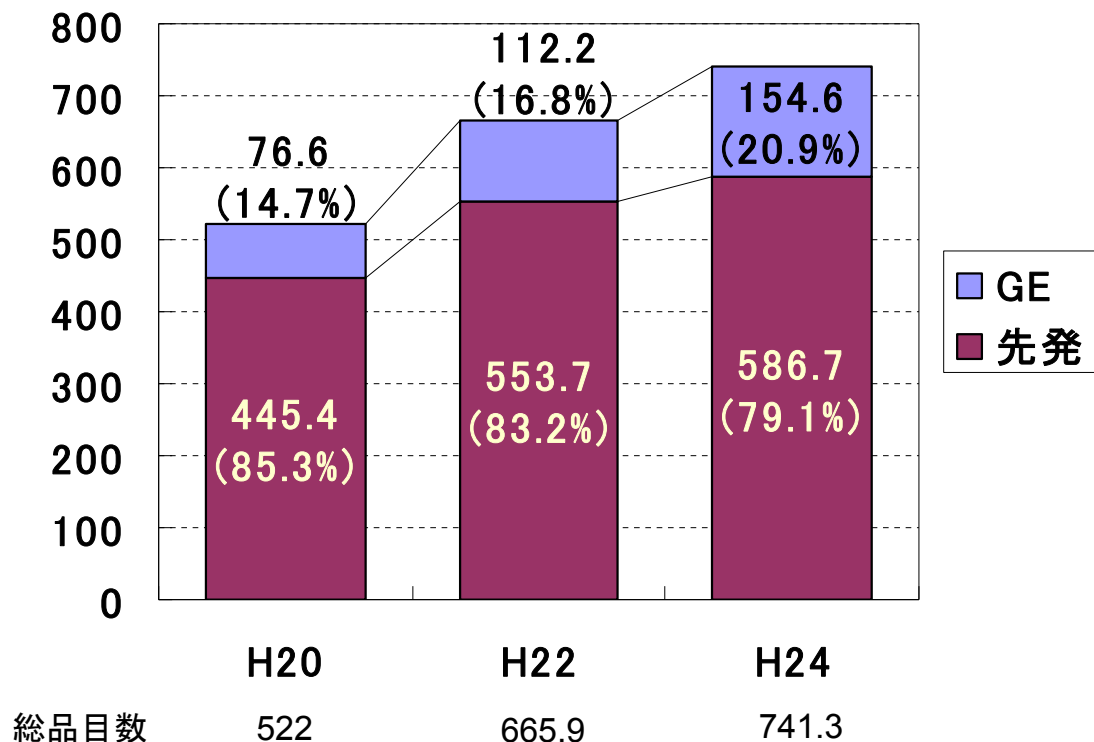
※回答が有効であった施設について集計 (H22:n=1,959、H24:n=1877)

変更可能な品目があったが、1品目もジェネリック医薬品を調剤しなかった理由(県内薬局)



※回答が有効であった施設について集計(n=1,540)
 ※複数回答

県内薬局におけるジェネリック医薬品の在庫状況



ジェネリック医薬品啓発用ポスターの作成



○目的

県民のGEに対する認識を高め、
医療機関等に相談しやすくする。

○内容

- 県、県医師会、県薬剤師会の
連名で作成
- GEについて簡潔にまとめた

○配布(H20. 3)

- 医療機関(4,500部)
- 保険薬局(2,500部)

39

リーフレット「ジェネリック医薬品Q&A」の作成



○目的

県民のGEに対する理解を深め、
身近な医薬品として、安心して
使用してもらう。

○内容

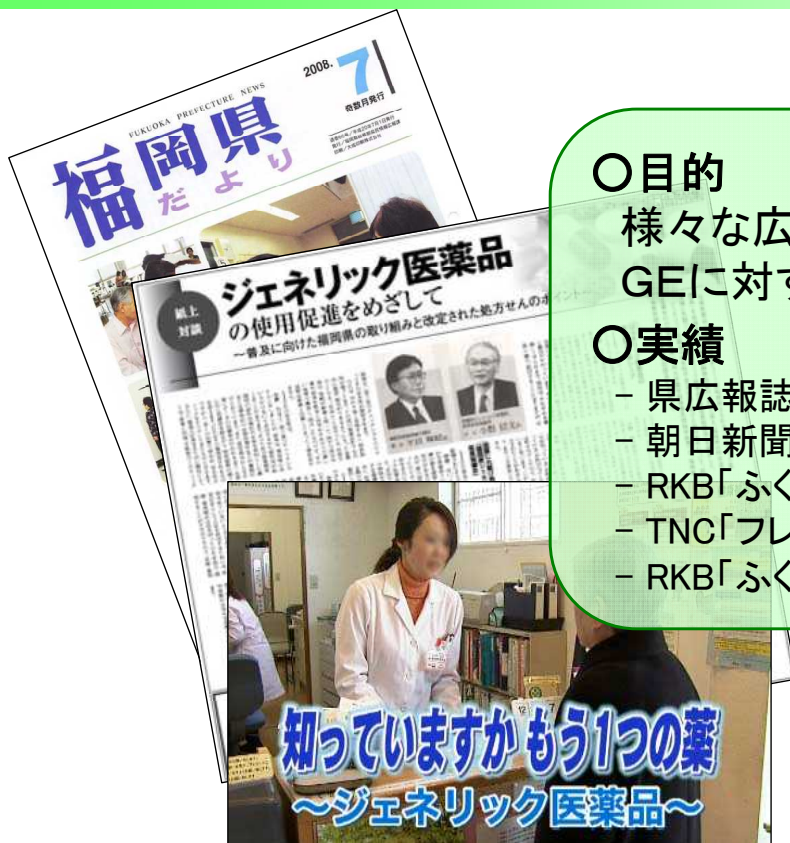
- GEに係る基本的なQ&A

○配布

- 保険薬局
- | | |
|--------|---------|
| H20. 3 | 25,000部 |
| H21. 4 | 20,000部 |
| H24. 5 | 24,000部 |

40

県広報誌、新聞、テレビ等による県民啓発



○目的

様々な広告媒体を利用し、県民のGEに対する理解を深める。

○実績

- 県広報誌「福岡県だより(H20.7月号)」
- 朝日新聞(H20.6.25)
- RKB「ふくおか見聞録」(H21.1.24)
- TNC「フレッシュ！ふくおか県」(H22.10.3)
- RKB「ふくおか見聞録」(H23.10.8)

41

ジェネリック医薬品情報提供コーナーの設置・運営

ジェネリック医薬品情報提供コーナーを福岡県薬剤師会薬事情報センターのHPに設置 (<http://www.fgeneric.jp/index.php>) (平成22年度事業)



掲載情報

- ・先発医薬品とジェネリック医薬品の比較
- ・ジェネリック医薬品情報(県の取組の情報等)
- ・よくあるQ&A
- ・質問コーナー

「先発医薬品とジェネリック医薬品の比較」について

- ① 医薬品名、一般名、メーカー名のいずれかを入力して検索
- ② 該当する医薬品リストが表示されるので、情報を知りたい医薬品を選択
- ③ その医薬品にジェネリック医薬品がある場合、ジェネリック医薬品名のリストを表示
- ④ リストからジェネリック医薬品を選択すると、保険の負担割合に応じた薬代差額を表示

また、ジェネリック医薬品の詳しい情報(添加剤の組成や性状(色、剤形、割線の有無等)、取扱薬局数、医療機関数)を表示できる。

42

薬剤費削減可能額通知事業(その3)

1. 国民健康保険の通知事業による削減効果額

| 通知書作成月 | 通知数 | 切替者数(延べ数) | 薬剤費削減額 |
|-----------------|----------|-----------|----------|
| 平成24年4月～平成25年3月 | 185,685通 | 104,367名 | 約2億188万円 |

2. 後期高齢者広域連合の通知事業による削減効果額

| 通知書作成月 | 通知数 | 切替者数(延べ数) | 薬剤費削減額 |
|-----------------|----------|-----------|------------|
| 平成24年4月～平成25年3月 | 120,000通 | 227,061名 | 約4億7,764万円 |

- * 切替者数(延べ数): 差額通知書を通知した被保険者のうち、先発医薬品から後発医薬品に切替えた人数
- * 薬剤費削減額: 後発医薬品に切り替えた被保険者における先発医薬品と後発医薬品の薬剤費の差額